

ごあいさつ

日頃より温かいご支援と温かな励ましを賜り、心より感謝申し上げます。

令和5年の議員当選から、早いもので丸2年になろうとしています。この間にいただいた皆さまのご協力とご理解に、改めて深く御礼申し上げます。

皆さまのお力添えを支えに、地域の課題の一つひとつ真摯に向き合い、全力で活動を続けてまいりました。

去年は豪雨災害により甚大な被害を受け、本年は一転して高温と干ばつという厳しい気象条件が続くなど、村にとって試練の多い年が続いております。また、本年4月から来年3月まで1年間の出生予定人数が7名程の見込みとのことで、少子高齢化が更に加速化している状況にあります。

そのような中で、地域の復興と再生に向けた具体的な政策提案を重ねてまいりましたが、十分な対応が進まず、もどかしさを感じる場面も少なくありませんでした。

これからは、村の将来を見据えながら、より良い地域づくりに向けた道を模索しながら、次の歩みのための準備を進めて参りたいと考えています。

これまでのご支援に心から感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

鮭川村議会議員／西野 桂一

令和7年
5月

- 3日(土) ※鮭川村エコパークオープン安全祈願祭
- 5日(月) ※小杉の大杉観光客入込状況調査
- 9日(金) 臨時議会
- 10日(土)~12日(月) ※地方創生事業先進地視察(北海道)
- 13日(火) 産業厚生常任委員会所管事務調査(小国町)
- 17日(土) 鮭川中学校運動会
- 18日(日) 鮭川小学校運動会
- 25日(日) ※国会議員との災害復旧に係る意見交換会
- 26日(月) 議会全員協議会

- 14日(月) 山形県町村会議会広報研修会(山形市)
- 15日(火) ※豪雨災害に係る山形新聞取材対応
- 23日(水) 臨時議会
- 25日(金)~26日(土) 「住民と議会との懇談会」
- 29日(火)~31日(木) ※農地干ばつ状況調査(村内)

令和7年
6月

- 1日(日) ※鮭川村花いっぱい運動参加
- 4日(水) 6月定例会開会
- 5日(木) 産業厚生常任委員会
- 6日(金) 6月定例会最終日及び中央要望打合せ会
- 8日(日) 鮭川歌舞伎定期公演
- 14日(土) 県道曲川新庄線道路改良期成同盟会総会
- 16日(月) ※有識者との村づくりに係る意見交換会
- 17日(火)~18日(水) 中央要望会及び県選出国会議員との懇談会(東京)
- 21日(土) 東京鮭川会総会(東京)
- 26日(木) 最上地区広域連合6月定例会

令和7年
8月

- 1日(金) ※村内危険空き家対策に係る調査
- 5日(火) ※金融機関との地域活性化懇談会(新庄市)
- 21日(木) ※最上地区新人議員有志の会勉強会(新庄市)
- 26日(火) ※土地改良区運営に関する調査(戸沢村)
- 28日(木)~29日(金) 全国町村議会広報研修会(東京)
- 31日(日) 国道458号日下上大淵間道路改良期成同盟会総会

令和7年
9月

- 2日(火) 議会全員協議会
- 5日(金) ※最上地域観光プロジェクト委員会(新庄市)
- 8日(月) 9月定例会開会
- 9日(火)~10日(水) 決算審査特別委員会
- 12日(金) 9月定例会最終日及び自治懇談会
- 13日(土) 鮭川村敬老賀詞贈呈式
- 14日(日) ※村内観光施設観光客入込状況調査

令和7年
7月

- 2日(水) 産業厚生常任委員と関係課職員との懇談会
- 7日(月) 企業防災力向上セミナー(新庄市)
- 9日(水) 鮭川村戦没者追悼式
- 10日(木) ※豪雨災害に係るNHK収録対応(村内)
- 11日(金) ※最上地区新人議員有志の会勉強会(新庄市)

※は独自の活動です。

一般質問 ● 西野桂一の質問要旨

◎ 6月議会

農業の担い手不足と事業承継に関する支援策について

主旨

本村のきのこや花きといった特色ある農産物は、鮭川村のブランド力を高めると同時に、ふるさと納税や観光、地域雇用にも寄与してきた重要な産業。

担い手不足が深刻化、後継者不在や経営負担の増大により、廃業を余儀なくされるケースが出始めている。

農業経営の継承や新たな担い手の確保・育成は、本村の農業を次世代に繋ぐうえで喫緊の課題、また、生産者から資材や燃料費等の高騰により、持続的な経営に不安の声も多くある状況。村の戦略的対応を求めた。

村長

①事業者の廃業・縮小の現状と今後の影響については、現在、菌茸分野で数件廃業の意向があり、花卉分野では従来からの生産者で、半数が後継者問題に直面している状況。各分野の農業者全体で今後も増加するものと推測。担い手の不足は、農業の衰退ひいては地域の衰退につながるものと危惧、有効な対策を早急に講じる必要がある。

②事業承継支援やマッチング制度の導入については、今後他市町村で実施されている取組等を研究し、農業者の意向確認を含め検討していく。また、東北農林専門職大学の卒業生の事業承継の可能性を大学と連携し検討する等、あらゆる方策を考えていく。

③新規就農者への支援については、新規就農者育成総合対策事業により、補助金交付等支援を行っている。当該制度はきのこ等特用林産分野ではなく、制度創設等の要望を行っていく。また、新規就農に取り組む地域おこし協力隊を募集していく。

○農業センサス調べ：2015年～2020年、農業経営体数は430経営体から394経営体、36経営体の減少。

○「山形県農業経営・就農支援センター」では、今年度から農業の円滑な経営承継に向けた支援を強化。山形県、農業団体、商工団体、移住定住促進支援機構などで構成され、具体的な引継ぎ方法の周知、準備費用助成などに取り組んでいる。

◎「新庄最上新人議員有志の会」での活動（前ページより）

令和5年度市町村議会議員選挙で当選した新人議員有志12名で結成。各市町村の施策や議会活動の情報交換や最上地域の活性化に向けた研修などの活動。最近では、各市町村議会に上程された「最上広域市町村圏事務組合規約の一部変更について（新たに特別職として「総合調整監」を配置する規約）」に関しての勉強会や各議会の動向などの意見交換会を実施。（結果として、新庄市：否決、7町村：可決、全市町村の可決が必要なため見送りとなった。）

◎「新庄最上地域観光プロジェクト委員会」での活動

◎ 9月議会

昨今の「米」政策の変化を踏まえた農地基盤整備計画等の方向性について

主旨

主食用米の需要が急増し、米価は高騰している。JA全農山形は、本年産米の概算金が、県産ブランド米の上げ幅は過去最高額、増額幅も最大、生産者側にとっては大変喜ばしい状況。

国では長年続いた生産調整の在り方を抜本的に見直し、生産拡大と安定供給を図る政策転換を進めている。稲作農家にとっては経営改善の好機である一方、急激な需要変化に対応するには圃場条件の改善、農地の集約化、用排水施設等のインフラ強化といった農地基盤整備が不可欠。計画的にスピード感を持って推進すべきと求めた。

村長

①農地基盤整備計画については、軽微な整備を必要とする圃場は小規模土地改良事業費補助金（上限40万円）を活用、大規模な整備については事業ニーズを把握しながら対応策を検討する。

②インフラ強化については、これまで平地での圃場整備事業を推進し、48%の整備率。地域の事業ニーズを把握しながら検討していく。老朽化が進む各揚水機場は、土地改良施設維持管理適正化事業で補修など施設の長寿命化を図る。

③担い手支援と基盤整備の連携策については、農地整備事業により区画整理と併せ担い手への農地集積が図られ、集積率により高率の補助金が交付される。一方で、事業期間が長期、高収益作物の取組等要件達成が難しい現状、事業の推進やその対策を検討していく。

○「鮭川村過疎地域持続的発展計画書」では、R3～R7年度まで受益面積10ha以上は県営ほ場整備事業、中山間部では小規模な整備事業を積極的に推進すると具体的に明記されているが未実施の状況。

○最上地域のほ場整備率59.6%(R4時点)。R7年度は本村以外の7市町村26地区では場整備事業を実施中。他の市町村から遅れている状況にある。

※過疎地域持続的発展計画とは、過疎地域に指定された地方公共団体が、地域の持続的な発展のために取り組む施策を計画するもの。

新庄商工会議所メンバー中心に組織化された当委員会に、現職時代から引き続き参加。

新庄最上地域の活性化を目的に、「道の駅建設に係る勉強会」、「地域資源を結び付けた観光プランの商品化」、「持続可能な運営組織（DMC）の構築」など具体的な実践に参画し、生活圏を共にする新庄最上地域の連携の必要性をより強く感じています。

詳細は議会広報で

西野桂一後援会事務所

ご意見・ご要望等は、西野桂一後援会事務所まで

〒999-5201 最上郡鮭川村大字京塚1115
TEL(携帯) 090-7931-8774
E-mail:kezu.17-4rms@softbank.ne.jp

